



TITLE:

教室通信・編集後記ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

教室通信・編集後記ほか. Cue 2000, 5: 50-50

ISSUE DATE:

2000-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/57799>

RIGHT:

cue

京都大学電気関係教室技術情報誌

NO.5

JUNE 2000

[第5号]

.....
巻頭言

三菱電機 伊藤利郎

.....
大学の研究・動向

超電導工学分野・情報回路方式分野

.....
産業界の技術動向

シャープ 武 宏

新設研究室紹介

研究室紹介

平成11年度修士論文テーマ紹介

学生の声

教室通信

cue：きっかけ、合図、手掛かり、という意味
の他、研究の「究」（きわめる）を意味す
る。さらに KUEE（Kyoto University
Electrical Engineering）に通じる。

cue は京都大学電気教室百周年記念事業
の一環として発行されています。

教室通信

桂キャンパスの新設について

本学の永年の懸案であったキャンパス問題に関して、平成11年度補正予算において、京都市西京区桂御陵坂地区にキャンパスを新設するための一部の土地取得経費と建物建設費が認められました。3月末に建物設計業者が選定され、現在設計が進められています。キャンパス用地は、苔寺の南に位置する丘陵の頂上部にあり、京都市内が一望できます。吉田からは南西に約11kmの距離です。

ここで、電気系に関する最近の学内組織再編の過程について簡単にご説明致します。なお、詳細については電気教室百周年記念誌を御覧下さい。従来、電気系教室と称していたのは工学部電気工学科、電子工学科および電気工学第二学科の3学科であり、教官はこれらの学科に所属して同時に大学院工学研究科の同名の3専攻を兼任する、という制度でした。

平成7年に本学の大学院重点化が行われ、教官はすべて大学院所属になり、逆に学部を兼任することとなりました。大学院3専攻は電気工学専攻、電子物性工学専攻、電子通信工学専攻に改組され、学部の3学科は定員140名の電気電子工学科に統合されました。その後、大学院独立研究科として、平成8年にエネルギー科学研究科、平成10年には情報学研究科が設立され、電子通信工学専攻は情報学研究科の知能情報学専攻と通信情報システム専攻のそれぞれ一部に分散して改組されました。現在では上記3研究科8専攻の教官が電気電子工学科を兼任しています。また、これらの専攻と協力関係を有するエネルギー理工学研究所、宙空電波科学研究センター、全学組織であるベンチャービジネスラボラトリーも学生の指導を担当しています。本情報誌 cue においては、これらの研究科等に跨がって存在する、電気電子工学科の学生の卒業論文を指導する研究室の集合として「電気系教室」を定義しております。本号17ページにこれらの研究室の一覧があります。

今回の桂キャンパス新設に伴い移転するのは、このうち大学院の工学研究科と情報学研究科の専任講座および基幹講座であり、第1期として平成15年度に工学研究科電気工学専攻、電子物性工学専攻（および化学系6専攻）が移転する予定です。なお、工学部は移転しませんので、学部の授業は従来通り吉田キャンパスで行われる予定です。また情報学研究科の移転時期はまだ決まっておらず、当分の間、電気系教室を構成する研究室が桂と吉田、宇治の3キャンパスに分散する状況となる見込みです。(T.S.記)

編集後記

「cue」の発行も5回目となりました。大変お忙しい中ご執筆頂いた方々をはじめ、多くの皆様のご援助のおかげであり、心から感謝いたします。

大学院重点化に伴う改組や桂キャンパスへの移転計画などにより、電気系教室は大きな変革の中にあります。教室と社会を結ぶ架け橋として「cue」は情報発信を続けてまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願い致します。
(H.O.記)

発 行 日：平成12年 6 月

編 集：電気電子広報委員会

奥村 浩士、佐藤 亨、小野寺秀俊、

萩原 朋道、野田 進、川上 養一

発 行：電気電子広報委員会

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学工学部電気系教室内

E-mail: cue@kuee.kyoto-u.ac.jp

印刷・製本：株式会社 田中プリント